

平成30年度 鹿児島大学2次試験前期日程(数学問題)

理・工・医・歯・農・水産・共同獣医・教育学部

平成30年2月25日

- 理[数理・物理・地環]・工・医[医]・歯学部は, [1], [2] 必答, [3] ~ [5] から1問選択, [6], [7] 必答. 数I・II・III・A・B(120分)
- 理[生命化]・農・水産・共同獣医学部は, [1], [2] 必答, [3] ~ [5] から1問選択. 数I・II・A・B(90分)
- 教育[数学・理科・技術・教育・心理・家政・国語・社会・英語・特別支援教育・健康教育]学部は, [1] 必答, [3] ~ [5] から1問選択, [2], [8] の2題から1問選択. 数I・II・A・Bまたは数I・III・A・B(90分)

1 次の各問いに答えよ.

- (1) $AB = 2$, $BC = 1$, $CA = \sqrt{3}$ のとき, 三角形 ABC の内接円の半径 r を求めよ.
- (2) $\sin^2 x - \sin^2 y = \sin(x+y)\sin(x-y)$ を示せ.
- (3) p を素数とするとき, $1 \leq k \leq p-1$ を満たす自然数 k に対して, 二項係数 ${}_p C_k$ は p の倍数であることを示せ.

2 曲線 $y = x^2$ と直線 $y = 4$ の交点を A , B とする. 点 P が曲線 $y = x^2$ 上を $-2 < x < 2$ の範囲で動くとする. このとき, 次の各問いに答えよ.

- (1) 三角形 ABP の重心 G の軌跡を求めよ.
- (2) (1) で求めた軌跡と直線 $y = 4$ で囲まれた部分の面積を求めよ.

3 数列 $\{a_n\}$ が自然数 $n = 1, 2, \dots$ に対して関係式

$$a_{n+2} - 5a_{n+1} + 6a_n = 0 \quad \dots (*)$$

を満たすとき、「数列 $\{a_n\}$ は漸化式 $(*)$ を満たす」という。このとき、次の各問いに答えよ。

- (1) 初項と公比がともに $r (\neq 0)$ である等比数列で漸化式 $(*)$ を満たす数列 $\{b_n\}$, $\{c_n\}$ の一般項をそれぞれ求めよ。ただし, $b_1 > c_1$ とする。
- (2) 二つの数列 $\{d_n\}$, $\{e_n\}$ がともに漸化式 $(*)$ を満たすとき, 二つの実数 k , l に対して $f_n = kd_n + le_n$ で定められる数列 $\{f_n\}$ も漸化式 $(*)$ を満たすことを示せ。
- (3) (1) で得られた数列 $\{b_n\}$, $\{c_n\}$ と二つの実数 k , l に対して, $a_n = kb_n + lc_n$ とおくと $a_1 = 21$, $a_2 = 57$ を満たす数列 $\{a_n\}$ の一般項を求めよ。

4 三角形 ABC とその内部に点 O があり, 正の実数 k , l に対して

$$\overrightarrow{OA} + k\overrightarrow{OB} + l\overrightarrow{OC} = \vec{0}$$

を満たしていると仮定する。さらに直線 OA と辺 BC, 直線 OB と辺 CA, 直線 OC と辺 AB の交点をそれぞれ D, E, F とする。このとき, 次の各問いに答えよ。

- (1) $\overrightarrow{OD} = x\overrightarrow{OA}$ とおくと x を k , l を用いて表せ。さらに $\frac{OD}{AD}$ を k , l を用いて表せ。
- (2) $\overrightarrow{OE} = y\overrightarrow{OB}$ とおくと y を k , l を用いて表せ。さらに $\frac{OE}{BE}$ を k , l を用いて表せ。
- (3) $\frac{OD}{AD} + \frac{OE}{BE} + \frac{OF}{CF} = 1$ を示せ。

5 1 個のサイコロを投げ, 1 の目が出るまでこれを繰り返し行う。ただし, このサイコロ投げを繰り返す最大の回数は N 回とし ($N \geq 2$), N 回まで繰り返して 1 の目が出なければ, 終了する。このサイコロ投げにおける繰り返し回数を X とする。このとき, 次の各問いに答えよ。

- (1) 確率 $P(X = k)$ を, $k < N$ と $k = N$ の場合に分けて求めよ。
- (2) X の期待値を求めよ。

6 関数 $f(x) = \frac{\log(x+1)}{x+1}$ について、次の各問いに答えよ。ただし、 $x \geq 0$ とする。また、 $\log(x+1)$ は $x+1$ の自然対数を表す。

(1) 自然対数の底 e に対して、 $t \geq 0$ のとき $e^t > \frac{t^2}{2}$ が成立することを用いて

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{\log(x+1)}{x+1} = 0$$

を示せ。

(2) $f(x)$ の増減、極値、グラフの凹凸および変曲点を調べて、そのグラフをかけ。

(3) 自然数 $n = 1, 2, \dots$ に対して正の数 a_n を、曲線 $y = f(x)$ と直線 $x = a_n$ および x 軸で囲まれた部分の面積が n^2 に等しくなるように定める。この a_n を求めよ。

(4) (3) で定まる数列 $\{a_n\}$ に対して、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_{n+1}}{a_n}$ を求めよ。

7 複素数平面上の点 z が $|4 - 3i - iz| = 2$ を満たすとする。このとき、次の各問いに答えよ。ただし、 i は虚数単位とする。

(1) 点 z の全体が表す図形を求めよ。

(2) $|z|$ の最大値と最小値を求めよ。

(3) $w = \frac{1}{z+1+4i}$ とする。点 w の全体が表す図形を求めよ。さらに、 $|w|$ の最小値を与える w を求めよ。ただし、 $z \neq -1 - 4i$ とする。

8 平面上で二つの曲線 $y = \sin x$ と $y = \cos 2x$ を考える。このとき、次の各問いに答えよ。

(1) $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ の範囲で $y = \sin x$ と $y = \cos 2x$ の共有点を求めよ。

(2) 二つの曲線 $y = \sin x$, $y = \cos 2x$ と二つの直線 $x = 0$, $x = \frac{\pi}{2}$ で囲まれる部分の面積を求めよ。

正解

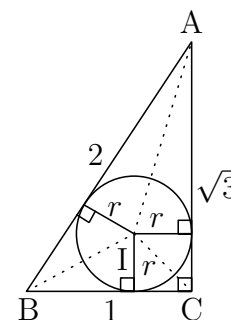
- 1 (1) $\triangle ABC$ の内心を I とすると

$$\triangle IBC + \triangle ICA + \triangle IAB = \triangle ABC$$

$$\frac{1}{2} \cdot 1r + \frac{1}{2} \cdot \sqrt{3}r + \frac{1}{2} \cdot 2r = \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \sqrt{3}$$

$$(1 + \sqrt{3} + 2)r = \sqrt{3}$$

$$\text{よって } r = \frac{\sqrt{3}}{3 + \sqrt{3}} = \frac{\sqrt{3} - 1}{2}$$



$$\begin{aligned} (2) \quad \sin(x+y)\sin(x-y) &= (\sin x \cos y + \cos x \sin y)(\sin x \cos y - \cos x \sin y) \\ &= \sin^2 x \cos^2 y - \cos^2 x \sin^2 y \\ &= \sin^2 x (1 - \sin^2 y) - (1 - \sin^2 x) \sin^2 y \\ &= \sin^2 x - \sin^2 y \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{別解 } \sin^2 x - \sin^2 y &= (\sin x + \sin y)(\sin x - \sin y) \\ &= 2 \sin \frac{x+y}{2} \cos \frac{x-y}{2} \cdot 2 \cos \frac{x+y}{2} \sin \frac{x-y}{2} \\ &= 2 \sin \frac{x+y}{2} \cos \frac{x+y}{2} \cdot 2 \sin \frac{x-y}{2} \cos \frac{x-y}{2} \\ &= \sin(x+y) \sin(x-y) \end{aligned}$$

$$(3) \quad {}_p C_k = \frac{p!}{k!(p-k)!} = \frac{p}{k} \cdot \frac{(p-1)!}{(k-1)!(p-k)!} = \frac{p}{k} \times {}_{p-1} C_{k-1}$$

素数 p は整数 k ($1 \leq k \leq p-1$) で割り切れない.

よって, ${}_p C_k$ は p の倍数である.

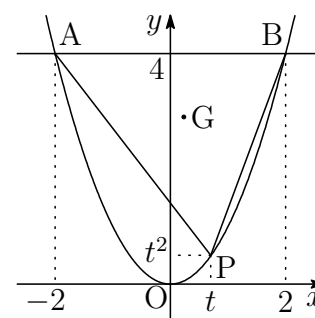
- 2 (1) $A(-2, 4)$, $B(2, 4)$, $P(t, t^2)$, $G(x, y)$ とおく.
 G は三角形 ABP の重心であるから

$$x = \frac{-2 + 2 + t}{3}, \quad y = \frac{4 + 4 + t^2}{3}$$

$$\text{ゆえに } t = 3x, \quad t^2 = 3y - 8, \quad (-2 < t < 2)$$

上の 2 式から t を消去すると

$$y = 3x^2 + \frac{8}{3} \quad \left(-\frac{2}{3} < x < \frac{2}{3} \right)$$

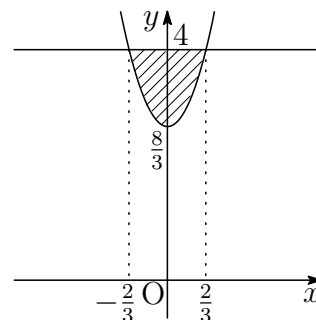


(2) (1) の軌跡と直線 $y = 4$ の交点の x 座標は

$$3x^2 + \frac{8}{3} = 4 \quad \text{これを解いて} \quad x = \pm \frac{2}{3}$$

右の図から求める面積を S とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_{-\frac{2}{3}}^{\frac{2}{3}} \left\{ 4 - \left(3x^2 + \frac{8}{3} \right) \right\} dx \\ &= -3 \int_{-\frac{2}{3}}^{\frac{2}{3}} \left(x + \frac{2}{3} \right) \left(x - \frac{2}{3} \right) dx \\ &= \frac{3}{6} \left(\frac{2}{3} + \frac{2}{3} \right)^3 = \frac{32}{27} \end{aligned}$$



- 3** (1) 初項と公比がともに $r (r \neq 0)$ である等比数列の一般項は r^n
これを (*) に代入すると

$$r^{n+2} - 5r^{n+1} + 6r^n = 0 \quad \text{ゆえに} \quad r^2 - 5r + 6 = 0$$

したがって $r = 2, 3$ よって $b_n = 3^n, c_n = 2^n$

(2) 漸化式 (*) を満たす数列 $\{d_n\}, \{e_n\}$ によって, 数列 $\{f_n\}$ が関係式

$$f_n = kd_n + le_n$$

で定められるから (k, l は定数)

$$\begin{aligned} f_{n+2} - 5f_{n+1} + 6f_n &= (kd_{n+2} + le_{n+2}) - 5(kd_{n+1} + le_{n+1}) + 6(kd_n + le_n) \\ &= k(d_{n+2} - 5d_{n+1} + 6d_n) + l(e_{n+2} - 5e_{n+1} + 6e_n) \\ &= k \cdot 0 + l \cdot 0 = 0 \end{aligned}$$

よって, $\{f_n\}$ も漸化式 (*) を満たす.

(3) (1) の結果から $a_n = k \cdot 3^n + l \cdot 2^n$

$a_1 = 21, a_2 = 57$ であるから

$$\begin{cases} 3k + 2l = 21 \\ 9k + 4l = 57 \end{cases} \quad \text{これを解いて} \quad k = 5, l = 3$$

よって, 求める一般項は $a_n = 5 \cdot 3^n + 3 \cdot 2^n$

$$\boxed{4} \quad (1) \quad \vec{OA} + k\vec{OB} + l\vec{OC} = \vec{0} \quad \dots (*)$$

$$(*) \text{ より } \frac{k\vec{OB} + l\vec{OC}}{l+k} = -\frac{1}{k+l}\vec{OA}$$

$$\text{ゆえに } \vec{OD} = -\frac{1}{k+l}\vec{OA} \quad \dots \textcircled{1}$$

$$\text{よって } x = -\frac{1}{k+l}$$

$$\textcircled{1} \text{ より } \vec{OD} = -\frac{1}{k+l}(\vec{OD} + \vec{DA}) \quad \text{ゆえに } (k+l+1)\vec{OD} = \vec{AD}$$

$$\text{よって } \frac{OD}{AD} = \frac{1}{k+l+1}$$

$$(2) \quad (*) \text{ より } \frac{l\vec{OC} + \vec{OA}}{1+l} = -\frac{k}{l+1}\vec{OB} \quad \text{ゆえに } \vec{OE} = -\frac{k}{l+1}\vec{OB} \quad \dots \textcircled{2}$$

$$\text{よって } y = -\frac{k}{l+1}$$

$$\textcircled{2} \text{ より } \vec{OE} = -\frac{k}{l+1}(\vec{OE} + \vec{EB}) \quad \text{ゆえに } (k+l+1)\vec{OE} = k\vec{BE}$$

$$\text{よって } \frac{OE}{BE} = \frac{k}{k+l+1}$$

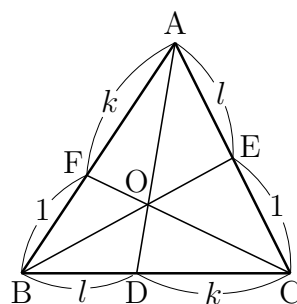
$$(3) \quad (*) \text{ より } \frac{\vec{OA} + k\vec{OB}}{k+1} = -\frac{l}{k+1}\vec{OC} \quad \text{ゆえに } \vec{OF} = -\frac{l}{k+1}\vec{OC} \quad \dots \textcircled{3}$$

$$\textcircled{3} \text{ より } \vec{OF} = -\frac{l}{k+1}(\vec{OF} + \vec{FC}) \quad \text{ゆえに } (k+l+1)\vec{OF} = l\vec{CF}$$

$$\text{よって } \frac{OF}{CF} = \frac{l}{k+l+1}$$

したがって、上式および(1), (2)の結果から

$$\frac{OD}{AD} + \frac{OE}{BE} + \frac{OF}{CF} = \frac{1}{k+l+1} + \frac{k}{k+l+1} + \frac{l}{k+l+1} = 1$$



- 5 (1) (i) $1 < k < N$ のとき, $k - 1$ 回まで 1 以外の目, k 回目に 1 の目が出る確率であるから

$$P(X = k) = \left(\frac{5}{6}\right)^{k-1} \times \frac{1}{6} = \frac{1}{6} \left(\frac{5}{6}\right)^{k-1}$$

1 回目に 1 の目が出る確率は $\frac{1}{6}$ であるから, $k = 1$ のときも成立する.

$$\text{よって, } k < N \text{ のとき } P(X = k) = \frac{1}{6} \left(\frac{5}{6}\right)^{k-1}$$

- (ii) $k = N$ のとき, $N - 1$ 回目まで 1 以外の目が出る確率であるから

$$P(X = N) = \left(\frac{5}{6}\right)^{N-1}$$

- (2) $r = \frac{5}{6}$ とし, 求める期待値を $E(X)$ とおくと

$$\begin{aligned} E(X) &= \sum_{k=1}^{N-1} k \cdot P(X = k) + N \cdot P(X = N) \\ &= \sum_{k=1}^{N-1} k \cdot \frac{1}{6} \left(\frac{5}{6}\right)^{k-1} + N \left(\frac{5}{6}\right)^{N-1} \\ &= \frac{1}{6} \sum_{k=1}^N k \left(\frac{5}{6}\right)^{k-1} + N \left(\frac{5}{6}\right)^N = \frac{1}{6} \sum_{k=1}^N k r^{k-1} + N r^N \end{aligned}$$

$$\text{ここで, } S = \sum_{k=1}^N k r^{k-1} \text{ とおくと } E(X) = \frac{1}{6} S + N r^N \quad \dots (*)$$

$$\begin{aligned} S - rS &= \sum_{k=1}^N k r^{k-1} - \sum_{k=1}^N k r^k = \sum_{k=1}^N k r^{k-1} - \sum_{k=2}^{N+1} (k-1) r^{k-1} \\ (1-r)S &= \sum_{k=1}^N r^{k-1} - N r^N = \frac{1-r^N}{1-r} - N r^N \\ \frac{1}{6} S &= 6(1-r^N) - N r^N \end{aligned}$$

$$\text{これを } (*) \text{ に代入すると } E(X) = 6(1-r^N) = 6 \left\{ 1 - \left(\frac{5}{6}\right)^N \right\}$$

6 (1) $t > 0$ のとき, $e^t > \frac{t^2}{2}$ であるから $0 < \frac{t}{e^t} < \frac{2}{t}$

$t = \log(x+1)$ とおくと ($x > 0$), $t > 0$ であるから, 上式により

$$0 < \frac{\log(x+1)}{x+1} < \frac{2}{\log(x+1)}$$

$\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{2}{\log(x+1)} = 0$ であるから, はさみうちの原理により

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{\log(x+1)}{x+1} = 0$$

(2) $f(x) = \frac{\log(x+1)}{x+1}$ より

$$f'(x) = \frac{\frac{1}{x+1} \cdot (x+1) - \log(x+1) \cdot 1}{(x+1)^2} = \frac{1 - \log(x+1)}{(x+1)^2}$$

$$\begin{aligned} f''(x) &= \frac{-\frac{1}{x+1} \cdot (x+1)^2 - \{1 - \log(x+1)\} \cdot 2(x+1)}{(x+1)^4} \\ &= \frac{-1 - 2\{1 - \log(x+1)\}}{(x+1)^3} = \frac{2\log(x+1) - 3}{(x+1)^3} \end{aligned}$$

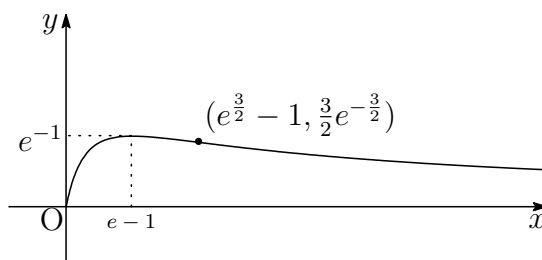
したがって, $f(x)$ の増減および凹凸は次のようになる.

x	0	...	$e-1$...	$e^{\frac{3}{2}}-1$...
$f'(x)$		+	0	-	-	-
$f''(x)$		-	-	-	0	+
$f(x)$	0	↗	e^{-1}	↘	$\frac{3}{2}e^{-\frac{3}{2}}$	↘

また, (1) の結果から $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = 0$

よって 極大値 $f(e-1) = e^{-1}$, 変曲点 $\left(e^{\frac{3}{2}}-1, \frac{3}{2}e^{-\frac{3}{2}}\right)$

グラフの概形は, 下の図のようになる.



(3) 曲線 $y = f(x)$ と直線 $x = a_n$ および x 軸で囲まれた部分の面積は

$$\int_0^{a_n} \frac{\log(x+1)}{x+1} dx = \frac{1}{2} \left[\{\log(x+1)\}^2 \right]_0^{a_n} = \frac{1}{2} \{\log(a_n+1)\}^2$$

この面積が n^2 であるから ($a_n > 0$)

$$\frac{1}{2} \{\log(a_n+1)\}^2 = n^2 \quad \text{これを解いて} \quad a_n = e^{\sqrt{2}n} - 1$$

(4) (3) の結果を利用して

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_{n+1}}{a_n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{e^{\sqrt{2}(n+1)} - 1}{e^{\sqrt{2}n} - 1} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{e^{\sqrt{2}} - e^{-\sqrt{2}n}}{1 - e^{-\sqrt{2}n}} = e^{\sqrt{2}}$$

7 (1) $|4 - 3i - iz| = 2$ より

$$|i||4 - 3i - iz| = 2 \quad \text{ゆえに} \quad |z + 3 + 4i| = 2 \quad \cdots (*)$$

よって、点 z の表す図形は 中心 $-3 - 4i$ 、半径 2 の円

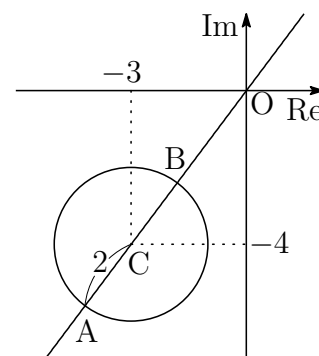
(2) (1) で求めた円の中心を C とし、右の図のように直線 OC と円の交点を A 、 B とすると

$$OC = |-3 - 4i| = \sqrt{(-3)^2 + (-4)^2} = 5$$

円の半径は 2 であるから

$$|z| \text{ の最大値は} \quad OA = OC + 2 = 7$$

$$|z| \text{ の最小値は} \quad OB = OC - 2 = 3$$



(3) $z \neq -1 - 4i$ より、 $w = \frac{1}{z+1+4i}$ ($\neq 0$) であるから

$$z = \frac{1}{w} - 1 - 4i$$

これを (*) に代入すると

$$\left| \frac{1}{w} + 2 \right| = 2 \quad \text{ゆえに} \quad |2w + 1| = 2|w| \quad \text{すなわち} \quad |w| = \left| w + \frac{1}{2} \right|$$

よって、 w は 2 点 0 、 $-\frac{1}{2}$ を結ぶ垂直二等分線、すなわち、 $w = -\frac{1}{4}$

また、 $|w|$ は点 $-\frac{1}{4}$ で最小値 $\frac{1}{4}$ をとる。

解説 1次分数変換(メビウス変換)

$$w = \frac{1}{z + 1 + 4i}$$

は、まず、点 z を $-1 - 4i$ だけ平行移動し、さらに反転 $\frac{1}{z}$ を行っている。
このとき、平行移動後の円 $|z + 2| = 2$ は原点を通るため、反転を行うと直線に変換される。逆に、直線は反転により円に変換される。

本題の直線 $w = -\frac{1}{4}$ 上の点

$$w = -\frac{1}{4}(1 + i \tan \theta) \quad \left(-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}\right)$$

を反転させると

$$\begin{aligned} \frac{1}{w} &= -\frac{4}{1 + i \tan \theta} = -\frac{4 \cos \theta}{\cos \theta + i \sin \theta} = -4 \cos \theta (\cos \theta - i \sin \theta) \\ &= -2(2 \cos^2 \theta - 2i \sin \theta \cos \theta) = -2(\cos 2\theta + 1 - i \sin 2\theta) \\ &= -2 - 2(\cos 2\theta - i \sin 2\theta) \\ &= -2 + 2\{\cos(\pi - 2\theta) + i \sin(\pi - 2\theta)\} \quad \left(-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}\right) \end{aligned}$$

これは、点 -2 を中心とする半径 2 の円を表す。

なお、原点を通らない円 $|z - a| = r$ は、反転により円に変換される。

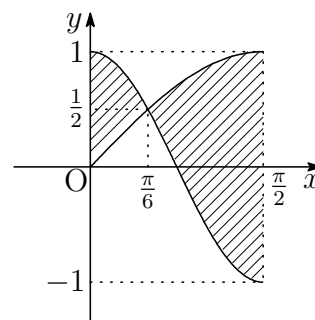
- 8 (1) $y = \sin x$ と $y = \cos 2x$ から、 y を消去すると

$$\sin x = \cos 2x \quad \text{ゆえに} \quad \sin x = 1 - 2 \sin^2 x$$

$$\text{したがって} \quad (\sin x + 1)(2 \sin x - 1) = 0$$

$$0 \leq x \leq \frac{\pi}{2} \text{ に注意して、これを解くと} \quad x = \frac{\pi}{6}$$

$$\text{よって、求める交点の座標は} \quad \left(\frac{\pi}{6}, \frac{1}{2}\right)$$



- (2) 求める面積を S とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_0^{\frac{\pi}{6}} (\cos 2x - \sin x) dx + \int_{\frac{\pi}{6}}^{\frac{\pi}{2}} (\sin x - \cos 2x) dx \\ &= \left[\frac{1}{2} \sin 2x + \cos x \right]_0^{\frac{\pi}{6}} + \left[-\cos x - \frac{1}{2} \sin 2x \right]_{\frac{\pi}{6}}^{\frac{\pi}{2}} = \frac{3}{2} \sqrt{3} - 1 \end{aligned}$$